

BASE Vol.111

実践的基礎知識 決算書の読み方編(2)
 <貸借対照表①>

2020/02/27

貸借対照表(B/S:Balance Sheet) ①

貸借対照表(B/S)はある時点での会社の資産と借金等の負債、そして純粋な自分の資産である純資産のバランスを表すもので、バランスシートとも呼ばれます。「会社に今どんな資産がいくら分あるか」、「借金等の負債がどのくらいあるのか」「会社の資産と借金等の負債ではどちらが多いのか」等を写真のように、一定時点で、記録して表しています。

貸借対照表の構成

まず、貸借対照表にはいつ時点の内容かを示す「日付」が入っています。そして、貸借対照表の左側には、どんな資産をいくら分持っているのかを表す「会社の持ち物リスト」があります。この持ち物リストを「資産の部」といいます。具体的には、現金:〇〇円、在庫:〇〇円、土地:〇〇円、建物:〇〇円というように資産の種類といくらかの価値があるのかが書いてあります。

貸借対照表の右上部分には、返す・支払う必要のある借金等の負債のリストが並べてあります。これを、「負債の部」といいます。

「左側」の資産から「右上」の負債を引いた残り、「右下」の部分は「純資産の部」といいます。こちらは「会社の資産を全部お金に換えて、借金等の負債を全部支払っても残る部分」となります。「純粋な自分の資産」という意味なので、「純資産」と呼びます。また、「自己資本」ともいいます。株主からの出資金や事業から得た利益の蓄積を表しています。

さらに左側の資産の部と右上の負債の部は、「流動」「固定」に分かれます。

流動資産は1年以内に現金化できる資産です(現金、売掛金、商品など)。固定資産は現金化に1年以上かかる資産です(不動産、特許権、持ち合い株など)。


一方、流動負債は、支払期限が1年以内の負債です(買掛金、短期借入金など)。固定負債は、支払期限が1年以上先の負債です(償還まで1年以上の社債、長期借入金など)。

図表1: 貸借対照表の構成イメージ図

| 株式会社〇〇 | | 令和X年●月●日 | |
|--|--|--|--|
| 資産の部 流動資産 ※1年以内に現金化できる 合計でいくら分 | 負債の部 流動負債 ※支払期限が1年以内の負債 合計でいくら分 固定負債 ※支払期限が1年以上先の負債 合計でいくら分 | 純資産の部(資産-負債) 純資産 ※純粋な自分の資産 合計でいくら分 | |
| 固定資産 ※現金化に1年以上かかる 合計でいくら分 | | | |
| 資産合計 | 負債・純資産合計 | | |

※貸借対照表の左側と右側の合計は同じになります。(左-右上=右下)


 ■資産の部
 会社の持ち物リスト


 ■上段:負債の部
 返す・支払う必要のある分

■下段:純資産の部
 純粋な自分の資産

当資料をご利用にあたっての注意事項等

●当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。●運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。●当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。●当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。●当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。●投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。●投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。●登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。●当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。